

# 環境報告書2011



工学部

## 環境報告書 2011 目次

トップページ	1
工学部長 日野 伸一	
部局概要	2
工学部を含む伊都地区における管理運営体制	3
環境研究等紹介	
海ゴミ・サイエンスカフェの開催 (環境都市部門：清野聡子准教授)	4
出前講義の開催 (環境都市部門：清野聡子准教授)	5
科学実験教室の開催 (工学研究院材料工学部門：宗藤チーム)	5
環境研究 (稲盛フロンティア研究センター)	6
「I/Uターンの促進と産業創生のための地域の全員参加による仕組みの開発」 (循環型社会システム研究センター：島谷研究室)	7
環境活動紹介	
伊都キャンパス構内一斉清掃	8
伊都地区協議会、伊都地区協議会環境対策WG、環境対策WGウエストゾーン部会	
エコキャップ運動	9
伊都地区協議会、伊都地区協議会環境対策WG、環境対策WGウエストゾーン部会	
ライトダウンキャンペーン	9
伊都地区協議会、伊都地区協議会環境対策WG、環境対策WGウエストゾーン部会	
各種データ	
平成22年度に調達したグリーン購入基準適合製品	10
資源・エネルギー・廃棄物関係のデータ	11
環境安全事例紹介	
平成22年度消火訓練の実施	
工学部	12
工学研究院応用化学部門	12
安全の手引き等の作成 (工学研究院航空宇宙工学部門、地球資源システム工学部門、材料工学部門)	13
緊急時内線番号「166」の設置	
工学部等事務部	14

## ト ッ プ ペ ー ジ



九州大学創立100周年を迎えた本年、2011年3月11日、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した東北地方太平洋沖地震、いわゆる東日本大震災が日本を襲いました。死者・行方不明を合わせて2万人超の尊い人命と、多大の生活・社会基盤を壊滅的に失い、復興にはかなりの年月を要すると思われます。また、地震と津波による被害を受けた福島第一原子力発電所では、放射性物質の放出という、あってはならない重大な原子力事故を誘発し、周辺住民の長期避難、そして

事故発生後4ヶ月を経過しても今だに解決の見通しの立たない混沌たる状態が続いています。一刻も早く、しっかりとした日本政府のリーダーシップの下に日本再生を願う次第です。

さて、工学系部局が伊都新キャンパスに移転して今年で7年目を迎えます。一昨年の六本松キャンパスの全学教育関連グループの合流によって、学生・教職員合わせて12,000人という九州大学最大のキャンパスとなり、まさに世界的教育研究拠点にふさわしい環境が整備されつつあります。

最近の具体的な環境整備について、建物関係では、昨年度、内閣府「最先端研究開発支援プログラム」に採択された安達千波矢教授(工学研究院応用化学部門)の最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)の研究棟が、工学部前のバス停の西側に建設中であり、本年9月の完成を目途に工事が急ピッチで進んでいます。また、センターゾーンの東側、すなわちイーストゾーンの県道沿いには、文部科学省「世界トップレベル研究拠点」に採択されたカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(12CNER)の研究棟が来年の完成に向けて工事が始まっています。いずれも、工学研究院に所属する世界に誇る優秀な教授陣が中核となって活躍しており、今後の益々の発展が期待されます。

また、九州大学喫煙対策宣言の下、工学系ウエストゾーンにおきましても、2、4号館の内側バルコニーに排煙ダクトを備えた喫煙スペースの工事が22年度末までに完了し、24年度からの建物内完全禁煙に対応できるようになりました。とは申せ、教職員・学生の愛煙家の諸氏におかれましては、自身の健康に配慮して、この機会に禁煙、卒煙に取り組んで戴きたいと切望します。

一方、工学系部局では、昨年度より全学と共同して、「伊都ECOプロジェクト」に取り組んでいます。本プロジェクトは、九州大学の地球温暖化対策実現に向けての一環として、各室におけるエネルギー使用の可視化を行うなどして、光熱水消費量の削減を図ろうとするものです。特に、今年は先の東日本大震災の影響から、九州においても強く節電努力を要求されており、九州大学としても一層の省エネ対策の推進に取り組んでいるところです。教職員・学生の皆様におかれましては、エアコン、照明、パソコン・プリンターの節電等々、自らの日常生活の中から細やかな節電努力に一層のご協力を戴きたいと存じます。

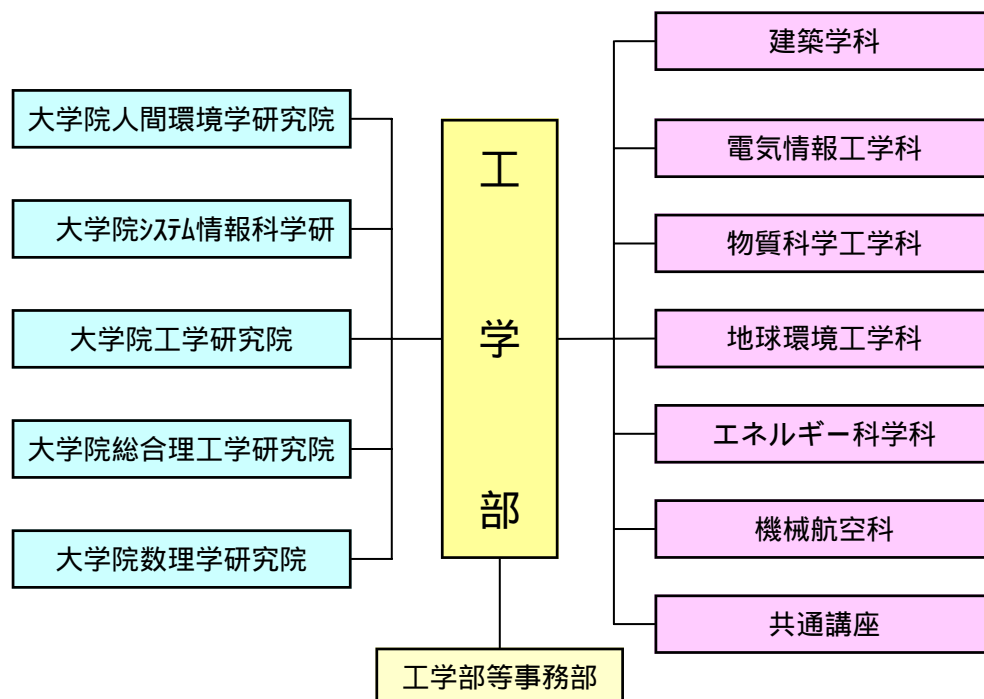
平成23年7月20日  
工学部長 日野 伸一

## 部 局 概 要

**部局名** 九州大学工学部

**所在地** 〒819-0395 福岡市西区元岡744  
 TEL 092-802-2708  
 URL <http://www.eng.kyushu-u.ac.jp>

**組織**



**関連施設（学内共同教育研究施設等）**

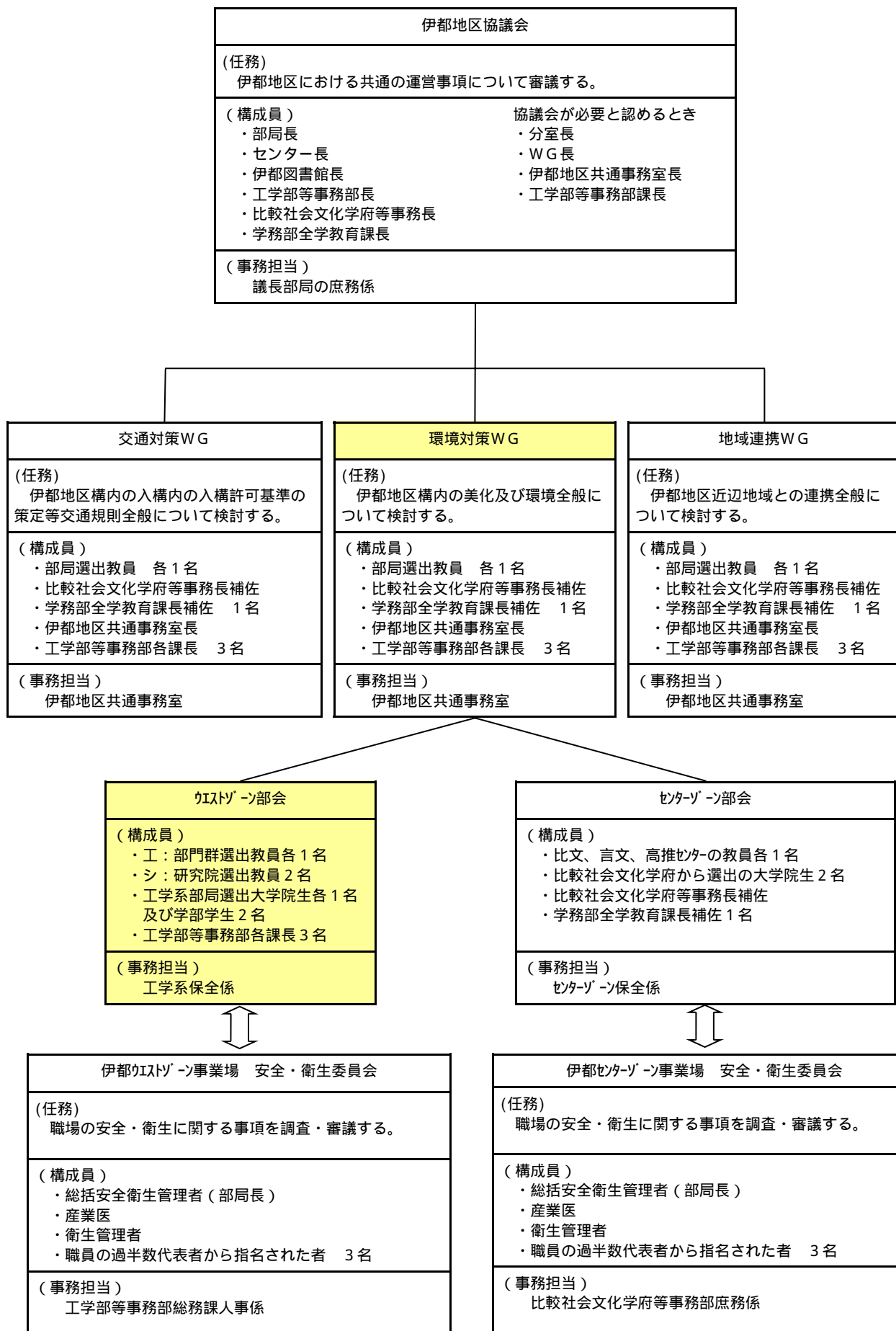
- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| システムLSI研究センター           | 水素エネルギー国際研究センター   |
| 超伝導システム化学研究センター         | 鉄鋼リサーチセンター        |
| 超高压電子顕微鏡室               | 未来化学創造センター        |
| 西部地区自然災害資料センター          | 循環型社会システム工学研究センター |
| 加速器・ビーム応用科学センター         | 分子情報連携研究センター      |
| ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー       | ものづくり工学教育研究センター   |
| 稲盛フロンティア研究センター          | 産学連携センター          |
| 分子システム科学センター            | エジプト日本科学技術連携センター  |
| ロバート・ファン・アントレプナショナルセンター |                   |

**構成員** 教職員・学生：6,226名  
 [内訳] 教職員835名（教員：433名、職員：159名、研究員等：243名）  
 大学院生1,836名（修士課程：1,257名、博士課程：579名）  
 学部生3,555名

**環境報告書対象の組織** 工学部（伊都地区ウエストゾーン）

**報告期間** 「環境報告書2011」に記載している内容は、主に2010年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の取り組み、実績値を中心にまとめており、一部に平成22年度3月31日以前及び平成23年4月1日以降6月末までの取り組みや活動データが含まれます。

## 工学部を含む伊都地区における管理運営体制（環境マネジメント担当）



## 環境研究等紹介

### 海ゴミ・サイエンスカフェの開催（環境都市部門：清野聡子准教授）

深刻化する海洋ゴミ問題について、地域での取り組みを進めていくためには、住民の関心を高めることや、高い意識を持った地域リーダーに、より充実した情報や知見を提供していくことが重要です。

そのために、海洋ゴミ問題についての科学的な研究の成果を、地域に還元・普及することを通じて、海洋ゴミ対策の促進が図られることを目指し、地域住民、NPO、事業者、行政関係者などを対象に、海洋ゴミ問題についての環境学習の場となる『海ゴミ・サイエンスカフェ』を開催しました。

これまで、全国の海岸ごとに、住民やボランティア団体等の努力によって海岸清掃（海岸漂着ゴミの回収）が続けられてきました。拾ってきれいにする、美化を目的としたこれらの活動は非常に重要かつ有益ではありますが、活動に参加する人々の間では、海岸漂着ゴミに含有・吸着した化学汚染物質による環境汚染についての問題意識は低かったと思われます。

社会貢献や環境保全のための熱意をもって、海岸清掃に取り組んでいる市民や、地域の行政関係者などに対して、サイエンスカフェを足掛かりとして、一層の知識や意欲をもった、地域リーダーの発掘と育成を行っています。

『海ゴミ・サイエンスカフェ』は、研究プロジェクトの成果を社会に還元する窓口となり、地域住民や地域行政、研究者が一同に会して情報を共有しつつ、地域の実情に即した海ゴミ対策を検討する場として寄与しています。

さらには、地域の学校や、さまざまな立場の地域住民（一般市民、漁業関係者、観光関係者等）に、海ゴミを教材とした環境教育の機会を提供しています。

また海ゴミ・サイエンスカフェに関する資料を整理して、ホームページを作成して公開しており、地域住民や地域行政、研究者らに情報を発信して、全国に向けて海ゴミ問題への取り組みを紹介しています。



**開催一覧**

- 1) 山形(庄内)第1回海ゴミ・サイエンスカフェ  
(平成22年6月30日(水)、酒田市公益研修センター 中会議室、参加者30名)
- 2) 石垣市第1回海ゴミ・サイエンスカフェ  
(平成22年9月27日(月)、石垣市総合体育館 研修室、参加者20名)
- 3) 山形(庄内)第2回海ゴミ・サイエンスカフェ  
(平成22年10月17日(水)、酒田市公益研修センター 中会議室、参加者30名)
- 4) 福岡(博多)第1回海ゴミ・サイエンスカフェの開催  
(平成22年11月18日(火)、九州大学西神プラザ・会議室、参加者6名)
- 5) 石垣市第2回海ゴミ・サイエンスカフェの開催  
(平成22年11月28日(月)、石垣港離島ターミナル・とぅもーるネットセンター、参加者40名)
- 6) 山形(庄内)第3回海ゴミ・サイエンスカフェの開催  
(平成23年2月15日(火)、酒田海洋センター、参加者40名)
- 7) 石垣市第3回海ゴミ・サイエンスカフェの開催  
(平成23年2月11日(月)、環境省国際サンゴ礁研究モニタリングセンター、参加者20名)
- 8) 五島市第1回海ゴミを教材にした環境教育  
(平成22年11月16日(火)、五島市岐宿町・三井楽町周辺の海岸、参加者20名)
- 9) 五島市第2回 海ゴミを教材にした環境教育  
(平成23年2月24日(木)、五島市岐宿町・五島市立三井楽小学校、参加者15名)

## 出前講義の開催（環境都市部門：清野聡子准教授）

「日本の海から拓く新しい地球環境工学」をテーマに山口県立下関西高校・出前講義を開催しました。

### 生徒たちからの感想

拝啓 秋分の後ますます秋深まることとお喜び申し上げます。

さて、先日の工学部出前講義の実施に際しましては、御多忙中にもかかわらず、貴校の御協力賜り、厚くお礼申し上げます。

工学部出前講義は、生徒が志望する分野の講義を拝聴し、その分野への関心を深め、主体的に選択を行うことを促進する目的で開催いたしました。おかげをもちましてその目的にかなうお話をいただきました。ありがとうございました。

今後とも、工学部出前講義がより充実したものになるよう評価を頂いていく所存ですので、なおいっそうの御助言、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、講義を受講した生徒の感想を添付いたします。御覧になりましたら幸いです。また、御返信がなされたら幸いです。 教員

平成22年11月15日

清野 聡子 ■

山口県立下関西高等学校長 本村博雄

6、工学 プーア 日本海から拓く新しい地球環境工学

- ・主に生物学的ことについて話をしてもらった。予備に送った内容のほとんどが聞き覚えがあり、興味を持って話を聞いていた。また、話を聞きながら、自分も考えてみるという姿勢が良かった。授業を受けることに対して、興味を持って話を聞いていた。
- ・聞いていて、興味が湧いてくるような内容が多かった。
- ・日本は海をたくさん囲まれているので、輸入品は多いという話を聞いて、その中で生物学的な話を聞いたという話を聞いた。知らないという話を聞いた。
- ・工学部がどんなところかと、「作る」というイメージがあったが、「作る」という言葉にも関わらず、いろいろなことをしているという話を聞いた。自分たちが実際にやっている生物学的な実験の話を聞いたという話を聞いた。生物学的な話を聞いたという話を聞いた。自分たちが実際にやっている生物学的な実験の話を聞いたという話を聞いた。

- ・自分が聞いていた内容や、自分が興味を持って聞いている内容について、自分も考えてみるという姿勢が良かった。授業を受けることに対して、興味を持って話を聞いていた。
- ・環境都市工学は自分も興味を持っているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

もの講義の進行に大きく影響することになった。

- ・良い講義だったと思う。
- ・ただ、モノを調べるのではなく、生物学的な話が多かったので、自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。
- ・自分も興味を持って聞いているものと同じで、自然と関心を持って聞いていることに驚いた。

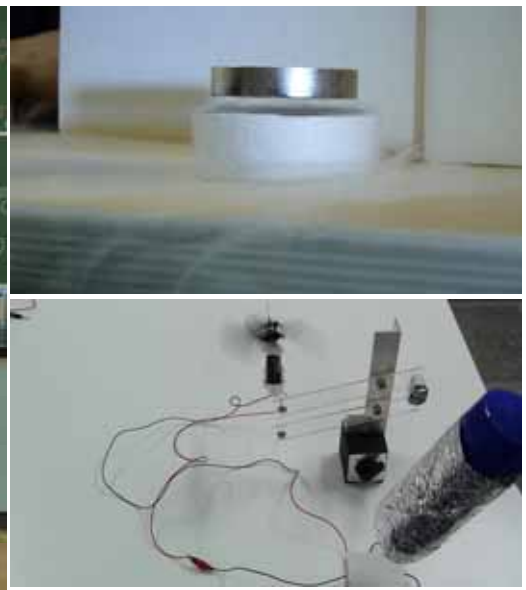
## 科学実験教室の開催（工学部材料工学部門：宗藤チーム）

・前原市東風小学校にて、小学3年生対象に「熱電発電・超電導を利用した省エネルギー」をテーマに科学実験教室を開催しました。

日時：2010年7月14日（水）

参加者：小学3年生：45名

父兄20名程度



## 環境研究（稲盛フロンティア研究センター）

- ・燃料電池用非白金電極の理論設計に関する研究（次世代エネルギー研究部門）
- ・固体酸化物燃料電池燃料極高耐久化に関する研究（次世代エネルギー研究部門）
- ・燃料電池用非白金電極の理論設計に関する研究（次世代エネルギー研究部門）
- ・バイオマス燃料利用のための触媒理論設計に関する研究（次世代エネルギー研究部門）
- ・固体高分子形燃料電池高耐久化に関する研究（次世代エネルギー研究部門）
- ・プロトン伝導性酸化物を用いた中温水蒸気電解による水素製造に関する研究  
（次世代環境技術研究部門）
- ・ナノ酸化物の界面伝導を用いた水電解による水素製造に関する研究（次世代環境技術研究部門）
- ・スピントロニクスを利用した省エネルギーデバイスに関する研究  
（次世代エレクトロニクス材料研究部門）
- ・環境に関する講演会を開催
  - 「低炭素社会の実現に向けて」  
（第5回稲盛フロンティア研究講演会 2010年7月21日）
  - 「持続可能エネルギー社会のための技術とイノベーション戦略」  
（第2回稲盛フロンティア研究セミナー 2011年2月25日）



# 「I/Uターンの促進と産業創生のための地域の全員参加による仕組みの開発」 (循環型社会システム工学研究センター：島谷研究室)

## (研究開発目標)

地域に分散する自然エネルギーを地域の中で使うことによる、エネルギー自給人口容量の推定手法、人口還流目標設定手法、CO2削減効果計算手法を確立する。

I/Uターナー者受け入れを促進し、「地域資源を活用した地域産業」創出を進めるため、地域の自然・文化資源の発掘による地元力を誘発し、地域内部の摩擦を克服し、全員参加で構築する地域経営体(社会的企業)の組織原則や仕組みの開発・実証を行なう。

本プロジェクトが目指すのは、都市から農山村に人口を移動することによって、大幅にCO2を削減することである。あわせて、地域の自然エネルギーに基づきながら、人と人のかかわりがある新しい社会を構築することである。近代化によって社会や自然にもたらされた数多くの分断と部分的効率化は社会や経済に対して様々な恩恵を与えてきたが、一方で、人と人の関係、地域を持続的に維持していくための連続していた仕組みを様々な場面で分断してきた。ここではその分断をミッシングリンクと呼ぶ。このプロジェクトではCO2の大幅な削減とともに、このミッシングリンクをつなぎながら、人が豊かに幸せに生きていくことができる新しい社会、都会から農山村へ人が移動したいと思う社会の構築をその目標とする。

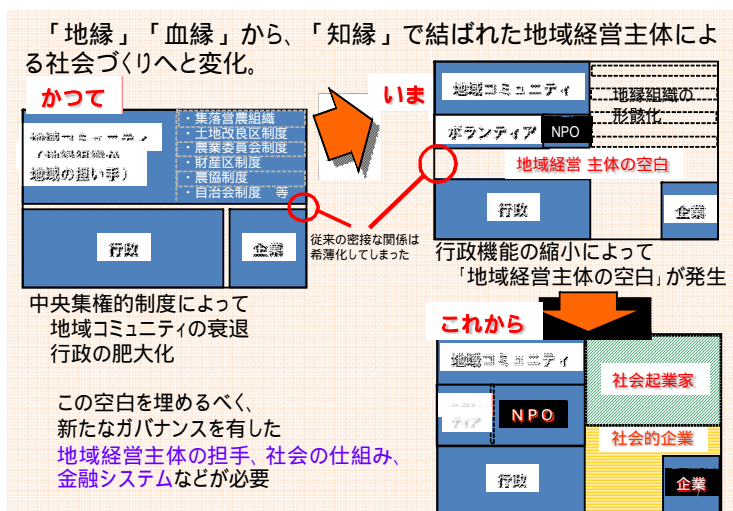
## (目標の解説)

自然エネルギーによるエネルギー自立と食料の自給が可能な農山村地域への人口還流は、温暖化対策における重要な要素の一つであるとともに、国土保全、森林利用のためにも我が国にとって必要不可欠であるという仮説を検証するために、地域に分散する自然エネルギーを地域の中で使うことによる、エネルギー自給人口容量の推定手法、人口還流目標設定手法、CO2削減効果計算手法を確立する。

I/Uターナー者受け入れを促進し、「地域資源を活用した地域産業」創出を進めるため、地域の自然・文化資源の発掘による地元力を誘発し、地域内部の摩擦を克服し、全員参加で構築する地域経営体(社会的企業)の組織原則や仕組みの開発・実証を行なう。

### 地域経営主体の構築の必要性

かつて右図に示すように地域コミュニティが機能し、土木事業や林業を中心とする企業も成立し地域経営が成り立っていた農山村は、中央集権的の制度により人口は減少し、地域産業は衰退し、その存在さえ危ぶまれる状況に追い込まれている。一方、脱温暖化の時代に入り、自然資源や地域文化を活用した社会的起業等により農山村地域の再興が期待されるようになってきているが、高齢化や人口減少、時代への適応性の欠如などによる既存の地域組織の形骸化、財政難あるいは合併による行政機能の縮小、土木業や林業の衰退により、地域経営主体の空白は深刻であり、思うように地域での起業が進展しない状況にある。本研究では、この空白を埋めるべく、地域社会がI/Uターナー者受け入れを促進し、「地域資源を活用した地域産業」創出を進めるため、地域内部の摩擦を克服し、全員参加で構築する地域経営体(社会的企業)の組織原則や仕組みの開発を行ない、実証を試みるものである。



## 環境活動紹介

### 伊都キャンパス構内一斉清掃（平成22年8月5日実施）

伊都キャンパスにおいては、環境保全活動の普及・啓蒙活動を行う「環境月間」にあわせて、毎年夏休み中に行われる様々なイベントに参加される学外の皆様を快くお迎えするために、教職員・学生にて構内一斉清掃を行っております。

暑い中、工学部から1,200名を超える教職員・学生の方々に参加していただき1時間清掃や草むしりを行いました。おかげでキャンパスがよりいっそうきれいになり様々な人を快くお迎えすることができました。

平成23年度も8月3日に実施する予定となっております。



期日：平成22年8月5日（木）

9：00～10：00

天候：晴れ

気温：30 前後

#### 参加者数

教職員・学生：約1,200名  
（工学部のみ）



回収したごみ：2tトラック約4台分  
（主に雑草類）

#### ごみの内訳：

タバコの吸い殻  
お菓子の包み紙  
空き缶、ペットボトル  
雑草、材木  
ビニール等



## エコキャップ運動

H 2 1 年度より伊都キャンパスでは、伊都地区協議会環境対策ワーキンググループを中心に、キャンパス環境対策の一環として、ゴミの分別推進、資源の再利用及び社会貢献の観点から、「分ければ”資源”、混ぜれば”ゴミ”」になるキャップを回収し、再資源化の小さな第一歩としてエコキャップ運動（ペットボトルキャップ集め）を実施しております。

**地球に愛を 子どもに愛を**  
**ペットボトルのキャップを集めて**  
**世界の子どもたちにワクチンを届けよう!**

ゴミとして回収されると  
 キャップ40個で8.150g  
 のCO<sub>2</sub>が発生します。

ペットが「心のキャップで世界」  
 の子どもにワクチンを届けよう。

**あなたの行動が世界の子どもと地球の未来を創ります!**

- 小さなキャップでも、分ければ資源!**  
リサイクルして再び使われます。
- ペットボトルのキャップをみんなで集めよう!**  
キャップは400個で10円になります。
- ホリオワクチンは1人分20円!**  
キャップ800個で一人の子どもの病が防げます。

キャップ回収 → リサイクルメーカー 回収 → 福祉施設・福祉団体へ寄付 → 福祉施設・福祉団体へ寄付 → 福祉施設・福祉団体へ寄付 → 福祉施設・福祉団体へ寄付

ECOCAP

## ライトダウンキャンペーン

環境省が地球温暖化防止のために呼びかけている“CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン”が実施されることに伴い伊都キャンパスでもライトダウンキャンペーンを実施。

6月21日と7月7日の両日、各部屋にご協力をお願いして消灯していただきました。

平成23年度も6月22日と7月7日に実施する予定となっております。

参考資料

昼も。夜も。節電ライトダウン2011

わたしたちは地球温暖化防止のため、節電ライトダウン2011に参加します。

8月22日(水)と7月7日(木)の夜19時～10時までの2時間、全道各地のライトアップ施設とともに、全国一斉ライトダウンに参加します。  
 ご遠慮をおかけしますが、みなさまのご理解とご協力をお願いします。

節電ライトダウン期間	2011年8月22日～8月31日 昼間の任意の時間/夜間の任意の時間	
特別実施日	真夏ライトダウン 8月22日(水)19時～10時	七夕ライトダウン 7月7日(木)19時～10時

今年の8月22日～8月31日は、環境省が地球温暖化防止のために、ライトアップ施設や家庭の電気を消していただくよう呼びかけている「節電ライトダウン2011」実施期間です。  
 特に8月22日(水)と7月7日(木)の夜19時～10時には、全道でライトダウンが実施されます。  
 わたしたちは、この機会に積極的に参加し、節電実行をお願いします。

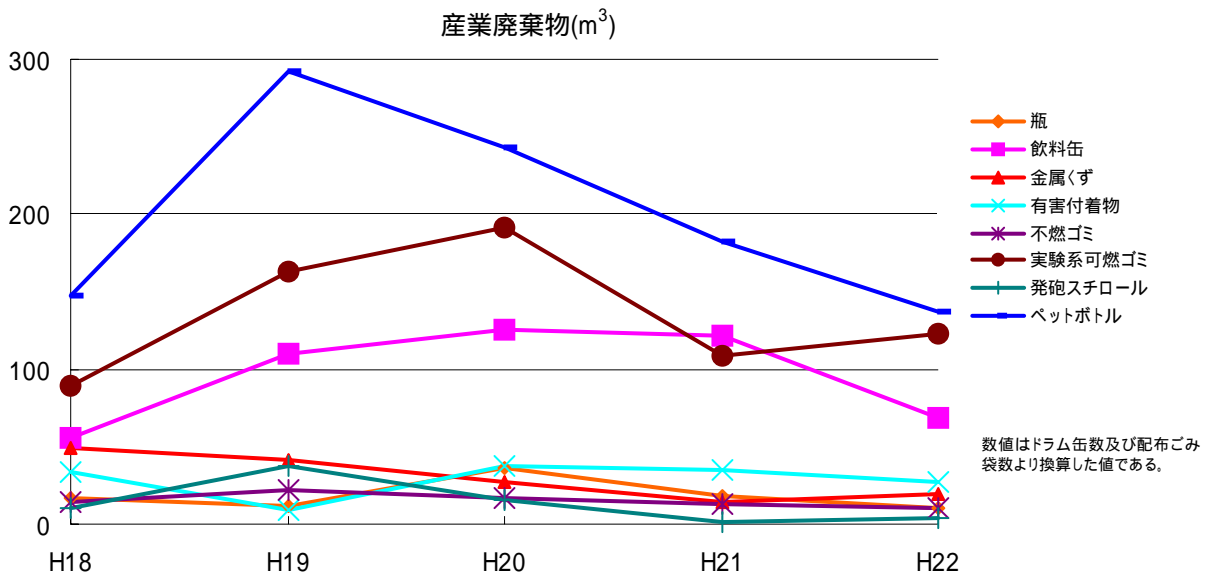
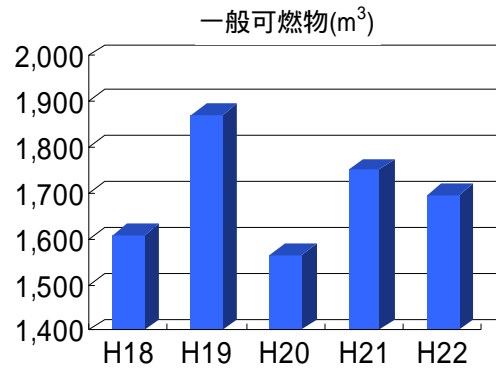
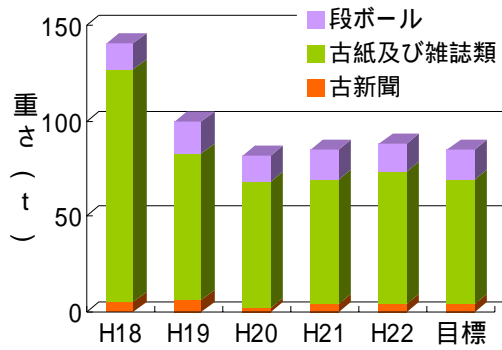
ライトダウン期間中も変わらず営業いたします。

## H 2 2 年度に調達したグリーン購入基準適合製品

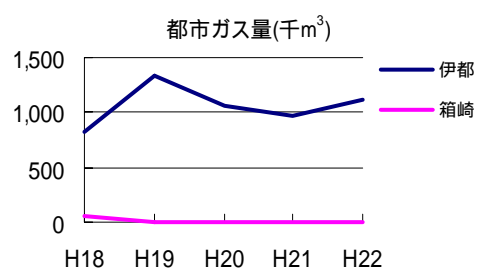
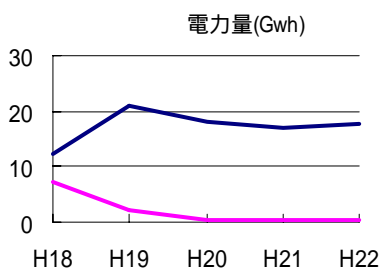
九州大学グリーン調達方針に基づいて、環境配慮型製品を優先的に購入する「グリーン購入」を進めています。

分野	摘要	調達量
紙類	コピー用紙等	48,114 kg
文具類	文具	51,871 個
機器類	事務機器等	364 台
OA機器	電子計算機等	5,347 台
家電製品	電気冷蔵庫等	23 台
エアコンディショナー等	エアコンディショナー等	28 台
温水器等	電気給湯器等	0 台
照明	蛍光管等	800 本
自動車等	自動車	0 台
消火器	消火器	40 本
制服・作業服	作業服等	62 着
インテリア・寝装寝具	カーテン	109 枚
作業手袋	作業手袋	29 双
その他繊維製品	ブルーシート等	62 枚
役務	印刷等	452 件

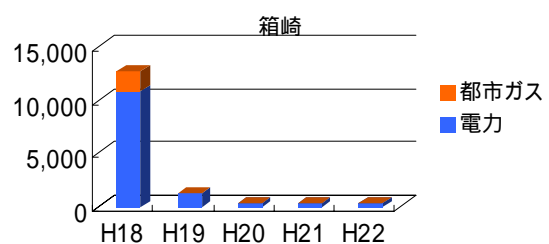
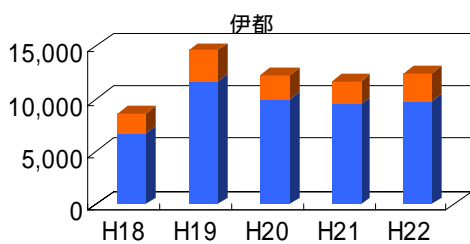
## 資源・エネルギー・廃棄物関係のデータ



### エネルギー使用量



### CO<sub>2</sub>年間排出量(t)



## 環境安全事例紹介

環境安全に関する取り組みを紹介します。

### 平成22年度消火訓練等の実施（工学部）

- ・ H22年11月25日（木）に工学部において、消防訓練を行いました。



水消火器での訓練



屋外消火栓での訓練

日時：H22年11月25日（木）  
15:00～16:30

参加者：教職員・学生等約200名

### 平成22年度消火訓練等の実施（工学研究院応用化学部門）

- ・ 応用化学部門では可燃性物質等を多数扱っているため、新4年生が配属されてから消火訓練を行っています。
- ・ H22年度は4月15日（木）16:00～伊都キャンパス仮設グラウンドにて実施しました。
- ・ 年度初めに各研究毎安全教育の実施、部門内緊急連絡先一覧の配布を行っています。

#### 消防訓練資料（一部抜粋）

**資料3**

**消火訓練の概要**

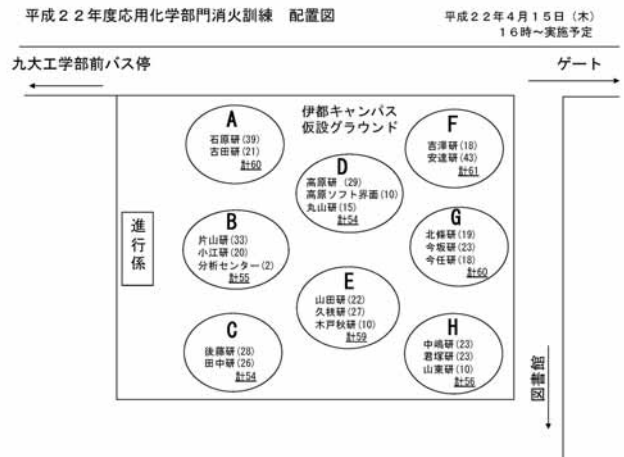
日 期：平成21年4月15日（木） 午後4時より1時間程度  
 ただし、雨天・強風による観望の場合は、4月22日（木）とする。  
 場 所：伊都キャンパス仮設グラウンド  
 参加予定者：応用化学部門の学生ならびに教員全員（約400名）

**準 備**

大 学：  オイルパン・・・・・・・・・・5 台  
 着火マン・・・・・・・・・・8 個  
 灯油を雑巾にかける容器・・8 個  
 灯油補充用ポンプ・・・・・・2 本  
 二酸化炭素消火器・・・・・・各研究室より2本ずつ持ち出し  
 （計40本）終了後、うち20本を補充する。  
 拡声器・・・・・・・・・・1 台

矢野商店様： オイルパン・・・・・・・・・・3 台  
 灯油・・・・・・・・・・必要量  
 雑巾・・・・・・・・・・必要数

矢野商店  
 福岡市東区青葉3丁目23-12  
 TEL: 092-663-6051  
 FAX: 092-663-6052



## 安全の手引き等の作成

(工学研究院航空宇宙工学部門、地球資源システム工学部門、材料工学部門、  
稲盛フロンティア研究センター)

環境教育や安全教育の一環で手引きを作成し、毎年講習等を行っています。



航空宇宙工学部門「安全衛生・環境管理の手引き」一部抜粋



地球資源システム工学部門「安全のてびき」一部抜粋



材料工学部門「学生・教員の立場から実験で気を付ける事(毒物・劇物編)」一部抜粋

## 緊急時内線番号「166」の設置（工学部等事務部）

工学研究院及びシステム情報科学研究院等が入居しているウエスト2号館及びウエスト3号館、4号館では運営方式の違いから施設管理請負業者が別々で、緊急時の連絡もそれぞれの業者に外線番号で通報することとなっていた。

また、伊都キャンパスには独自に建物を持つ学内共同教育研究センターも存在していることから、伊都キャンパス内のどの部署からの通報でも門衛所で受信するように一本化し、併せて、緊急時内線番号を「166」として統一、すべての電話器に「火災等緊急連絡先電話166」のシールを貼付し、一目でわかるようにした。

これは、暗記もできる番号のうえに受話器にも明示されていることから、緊急時にどの場所からでも混乱を招くことなく通報できることを目的としている。

伊都キャンパス =ウエスト・ゾーン= 災害発生時の緊急連絡体制

図9-3

